

鳥坂寺跡保存活用基本構想

平成 24 年3 月

柏 原 市

目 次

1 序論		
1-1 基本構想の策定	-----	1
(1) 鳥坂寺跡の発見	-----	1
(2) 基本構想の位置づけ	-----	1
(3) 策定委員会の設置	-----	2
2 柏原市の概要	-----	3
2-1 柏原市総合計画の概要	-----	3
(1) まちづくりの将来像	-----	3
(2) まちづくりの目標	-----	4
2-2 柏原市の条件整理	-----	5
(1) 社会条件の整理	-----	5
(2) 自然条件の整理	-----	8
3 鳥坂寺跡の整備指針	-----	11
3-1 鳥坂寺の概要	-----	11
(1) 鳥坂寺の歴史	-----	11
(2) 鳥坂寺の伽藍配置	-----	13
(3) 鳥坂寺跡の現状	-----	14
(4) 鳥坂寺跡周辺の現状	-----	16
3-2 鳥坂寺跡の保存・活用方針	-----	19
(1) 基本理念	-----	19
(2) 基本方針	-----	20
(3) 基本目標	-----	21
(4) 対象範囲	-----	21
(5) 整備期間	-----	23
4 保存管理運営計画等	-----	24
(1) 保存管理計画	-----	24
(2) 管理運営の考え方	-----	24
(3) 管理運営主体	-----	24
(3) 管理運営計画	-----	24
(4) 活用の促進	-----	24
5 今後の課題	-----	25

1 序論

1-1 基本構想の策定

(1) 鳥坂寺跡の発見

鳥坂寺跡（高井田廃寺）は、柏原市高井田の丘陵地に位置する、7世紀後半に創建された古代寺院跡である。

当地では、江戸時代から古い瓦が出土していたが、大正14年(1925)から昭和元年(1926)にかけて敷設された大阪電気軌道桜井線（現・近畿日本鉄道大阪線）の工事の際には、相当量の遺物が出土したものとされている。

その後、昭和4年(1929)の同線路東側のブドウ畑で発見された鴟尾(しび)によって、広く世間から注目されるようになった。

以降さまざまな調査が行われるなか、昭和40年前後の高度経済成長期に入り、天湯川田神社周辺一帯での宅地開発計画がおこり、これへの対処のための試掘調査や発掘調査によって、三重塔跡の発見、金堂・講堂跡の発見と相次ぎ、当地が古代寺院跡であると広く知られるようになった。

(2) 基本構想の位置づけ

鳥坂寺は、天平勝宝8年(756)に孝謙天皇が巡拝した河内六寺の一つであり、金堂基壇など遺構の遺存状況が他に例を見ないほど良好なことから、仏教文化に彩られた飛鳥・奈良時代の我が国の歴史や地域社会を知る上できわめて重要な遺跡として評価されているところである。

本構想は、鳥坂寺跡の保存と活用に向けた整備を行うにあたっての・理念・方針・目標等に関して委員会にて意見を求め、基本構想として取りまとめたものである。

(3) 策定委員会の設置

保存と活用に関する基本構想の策定に当たっては、柏原市まちづくり基本条例(平成18年柏原市条例第53号)に基づき市民協働を進めることとし、一般公募の市民や学識経験者等10名による鳥坂寺跡保存活用基本構想等策定委員会を発足させた。

7月に委員委嘱の後、月1回のペースで会議を開き、基本構想としてとりまとめ、平成24年2月ごろ、市長への提言を行う予定で検討が進められた。

委員会のメンバーは、次のとおりである。

委員名簿(50音順・敬称略)

	氏 名		区分
委員	植岡 稔	うえおか みのる	公募
"	裏野 純子	うらの すみこ	公募
"	大坪 隆夫	おおつぼ たかお	公募
"	大橋 嘉治	おおはし よしはる	公募
"	苅田 玲子	かりた れいこ	公募
"	西川 豊	にしかわ ゆたか	公募
"	正口 信弘	まさぐち のぶひろ	公募
副委員長	蓑原 正	みのはら ただし	公募
委員長	森 明彦	もり あきひこ	学識経験者(関西福祉科学大学教授)
副委員長	山近 博義	やまちか ひろよし	学識経験者(大阪教育大学教授)

2 柏原市の概要

2-1 柏原市総合計画の概要

(1) まちづくりの将来像

本市では、平成 23 年度(2011)を初年度とし、平成 32 年度(2020)を目標年度とした第 4 次柏原市総合計画を策定している。

■目標人口

①利便性の高い都市基盤の整備、②質の高い魅力ある生活環境の創出、③子育て支援策の充実、④地域産業の活性化、⑤若者の定住化促進に重点を置いた施策の充実などに取り組むことにより、2020 年の人口は現在の人口を上回る 80,000 人としている。

	実績			目標
	2007 年	2008 年	2009 年	2020 年
総人口 (人)	75,977	75,370	74,920	80,000

※実績は住民基本台帳各年 9 月末人口

■まちづくりの将来像

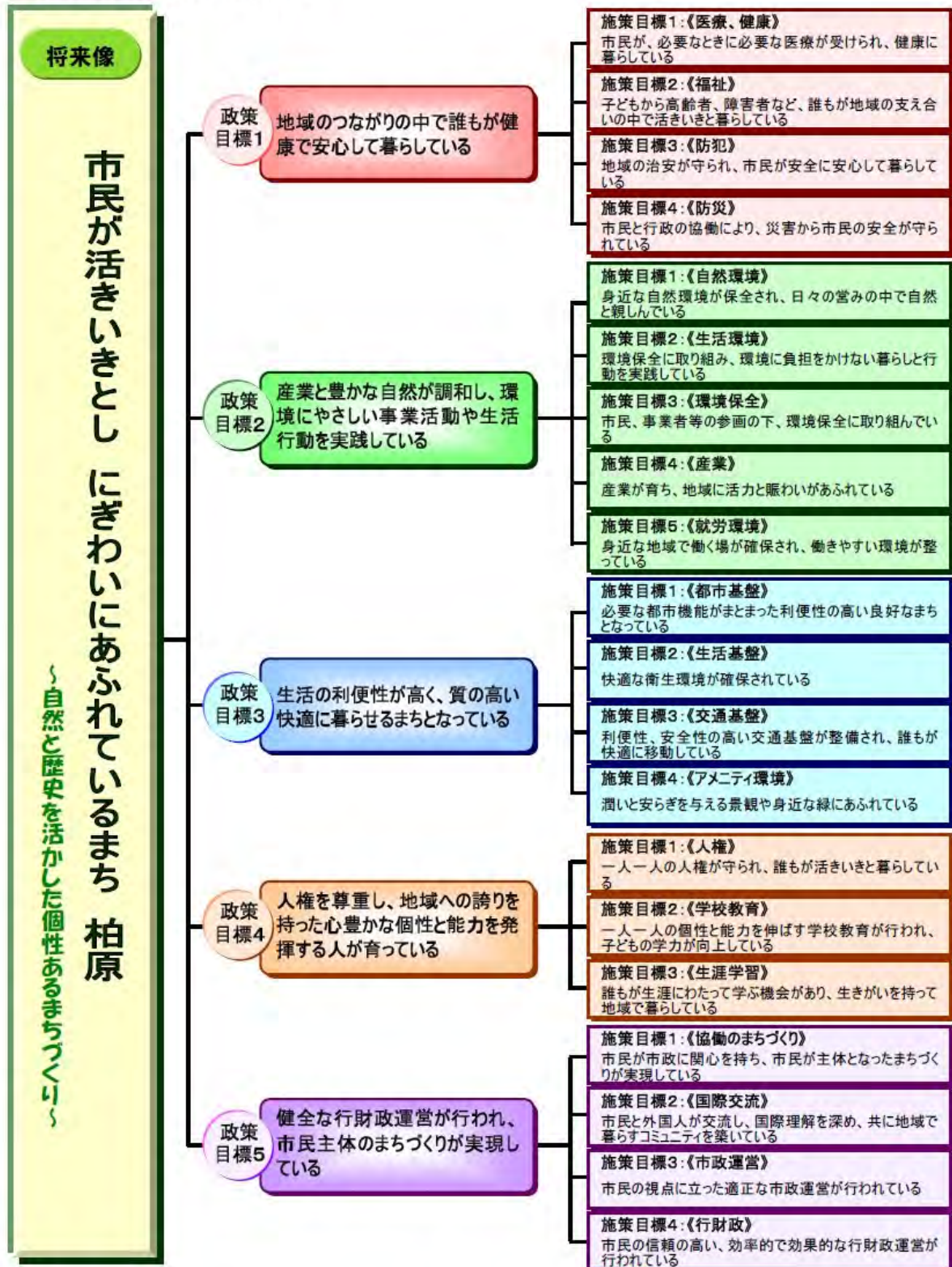
市民一人ひとりが、本市の自然環境や歴史を再認識し、誇りと愛着が育まれるように、人と人のつながりや交流を通じて、自然や歴史を活用し個性あるまちづくりに取り組む。また、にぎわいと活力にあふれるまちを実現するために、目標とする将来象を次のように設定している。



(2) まちづくりの目標

目標とする将来象「市民が生きいきとし、にぎわいにあふれているまち 柏原」の実現に向けて、次のように政策目標と施策目標を設定している。

◆将来像実現のための施策体系



2-2 柏原市の条件整理

(1) 社会条件の整理

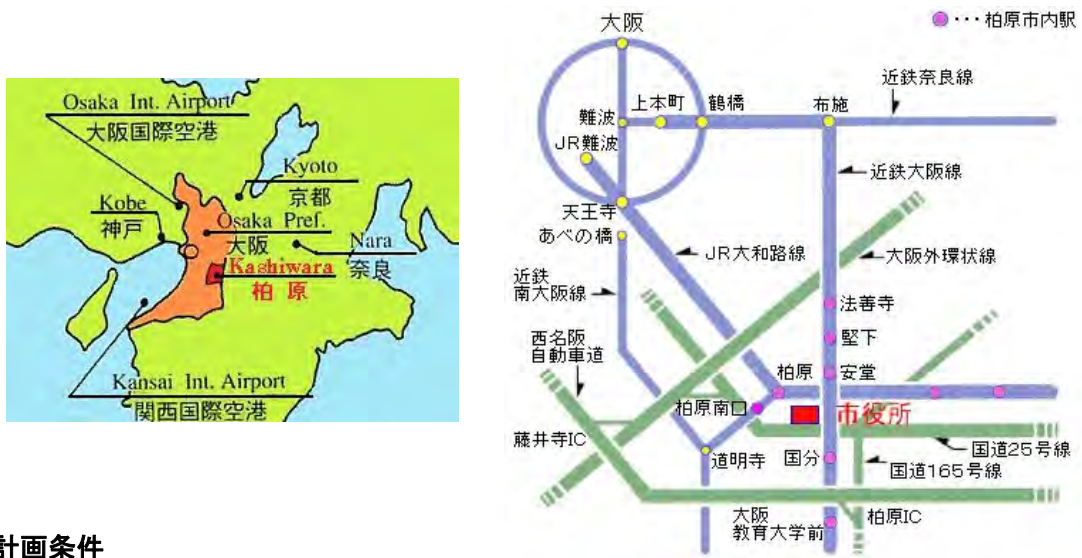
■位置・規模

柏原市は、大阪の都心から20kmのところに位置し、東は生駒山系を隔てて奈良県と接し、西は藤井寺市、南は羽曳野市、北は八尾市と接している。

市域は東西6.6km・南北6.63km、面積は25.39km²の規模である。

奈良盆地の諸流を集めた大和川が、金剛・生駒山地を横断して大阪平野に流れ出る付近に、その街並みを形成してきた。

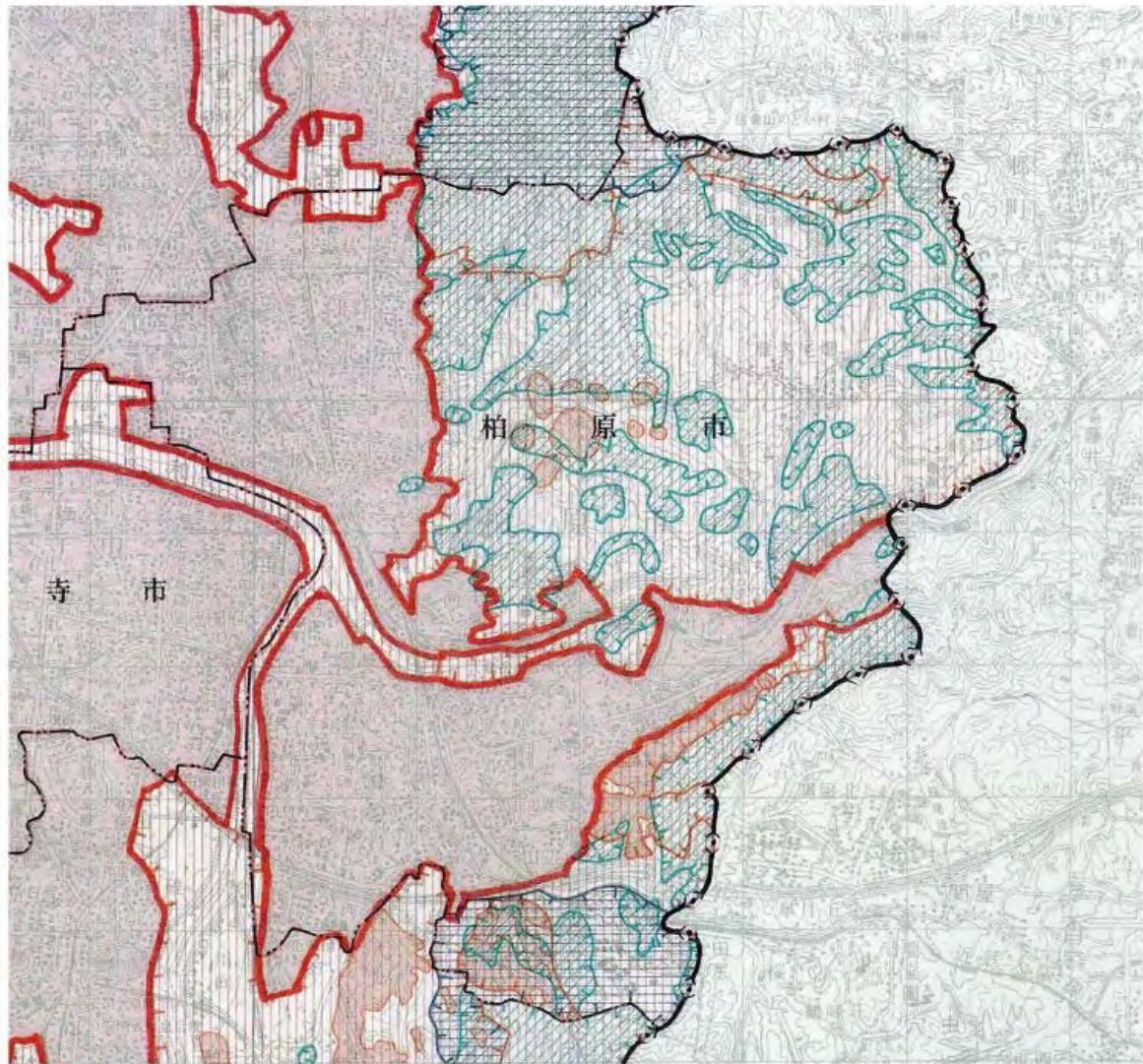
公共交通機関鉄道として、JRでは柏原駅・高井田駅・河内堅上駅が、近鉄では柏原駅・柏原南口駅・法善寺駅・堅下駅・安堂駅・国分駅・大阪教育大学前駅がある。



■都市計画条件

市全域が都市計画区域に指定され、平地部の市街地は市街化区域、山間部などは、市街化調整区域になっている。

山間部は農業地域に指定されており、市南部の大阪教育大学周辺は、自然公園区域としての指定がみられる。

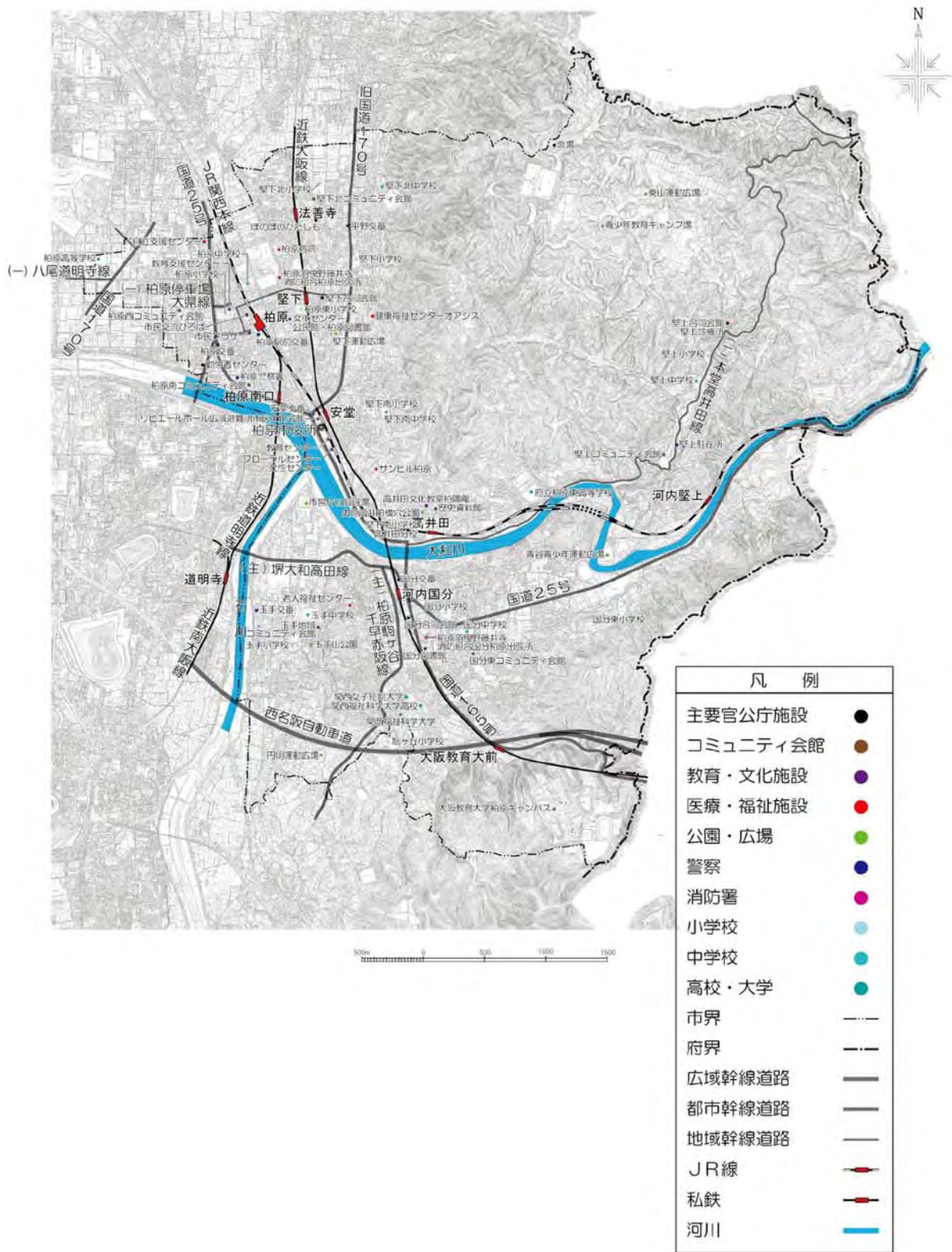


凡 例											
都市地域		農業地域		森林地域		自然公園地域		自然保全地域			
市街化区域		農用地区域		国有林		特別地域		特別地域			
市街化調整区域				地域森林計画 対象民有林							
				保安林							

また、用途の指定状況は次表のとおりである。

区 分	第一種低層 住居専用地域	第一種中高層 住居専用地域	第二種中高層 住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域
面積 (ha)	51.0	138.0	233.0	207.0	22.0	23.0	8.4	194.0	12.0	30.0
建ぺい率 (%)	60	60	60	60	60	80	80	60	60	60
容積率 (%)	150	200	200	200	200	200 300	400 600	200	200	200

次に、本市内における主要施設を以下に示す。



■歴史・文化条件

本市の歴史は、旧石器時代にさかのぼり、二上山の火山活動により生成されたサヌカイト（讃岐石）など石器の材料となる石材の採掘遺跡が知られている。

古墳時代には、松岳山古墳・玉手山古墳群・高井田横穴群など全国的に有名な古墳が集中し、奈良時代には、船橋廃寺・田辺廃寺・国分寺・国分尼寺など 17ヶ所の古代寺院跡の存在が確認され、往時の繁栄がしのばれる。

その後、室町から戦国時代にかけては、戦乱の地となったこともあるが、豊臣氏の支配下におかれたあと、徳川氏の開幕によって、政治的・経済的に重要な拠点として幕府直轄地となった。

宝永元年(1704)には、氾濫を繰り返してきた大和川の付け替えがおこなわれ、川の跡地は米や綿の耕作地として利用された。また、了意川に就航した柏原船や大和川の剣先船などにより、物資の集散地として賑わった。

さらに、明治以降は現在のJR関西本線や近鉄大阪線の開通により、近代産業・近郊農業の発展が促された。

昭和 31 年(1956)、中河内郡柏原町と南河内郡国分町が合併し、中河内郡柏原町となり、昭和 33 年(1958)には市制の施行によって現在の形になった。

(2) 自然条件の整理

■地形条件

本市の地形の概観としては、市域の3分の2を山が占め、中央部に大和川が流れている構成となっている。

大阪の都心からわずか 20km ほどの距離にありながら、緑の山々と美しい溪谷、豊かな川の流れなど、多彩な自然環境を備えた市となっている。



山麓にはブドウ畑が多く、全国有数のブドウの産地である。さらにこのブドウから造られるワインは、柏原ワインとして知られている。

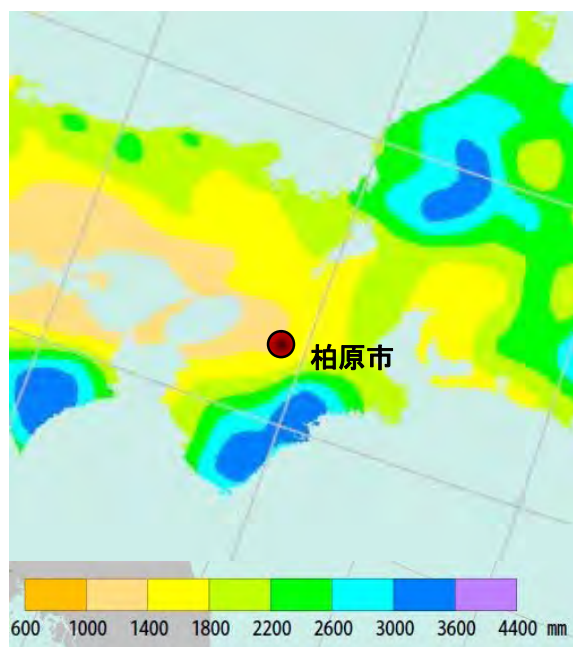
■水系条件

市域中央を東西に流れる大和川と南から流入する石川を骨格的な水系として、それらに小河川が流入している。

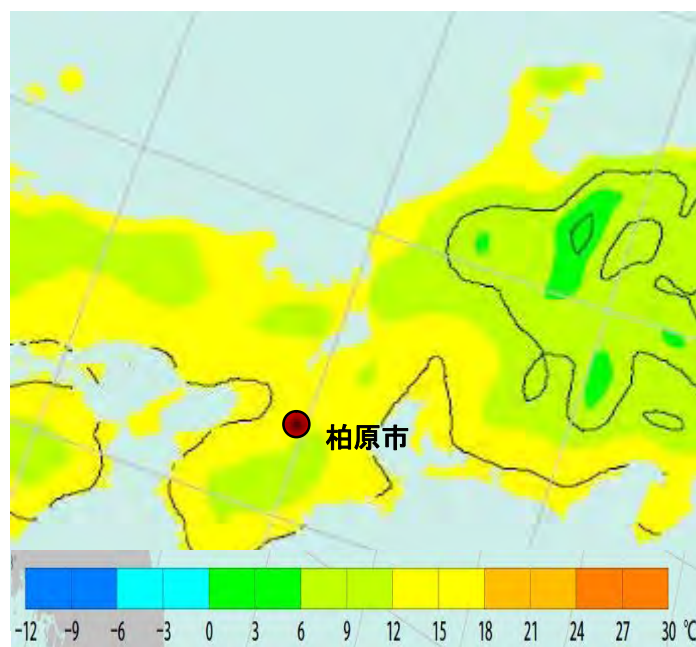


■気象条件

気象庁の統計（測定地：八尾市）によれば、年間降水量は1,300mm～1,400mm程度と少なく、また、気温は16度～17度程を示し、温暖少雨の瀬戸内式気候の特徴を有している。



年間降水量



年平均気温

八尾市における気象データ（気象庁）

	降水量(mm)				気温(°C)				
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低		
<u>2003</u>	1432	69	35	///	16.6	20.8	12.6	34.8	-2.9
<u>2004</u>	1453	97	61	///	17.6	22.2	13.3	35.9	-2.2
<u>2005</u>	839	64	19	///	16.8	21.8]	13.5]	37.2	-1.5]
<u>2006</u>	1341	66	26	///	16.9	21.2	12.9	37.2	-3.3
<u>2007</u>	946	49	32	///	18.0	22.2	13.9	37.6	-1.5
<u>2008</u>	1038.0	33.5	24.5	///	16.6	20.9	12.6	36.6	-1.9
<u>2009</u>	1150.0	63.5	22.0	8.0	16.8	21.4	12.5	35.9	-1.9
<u>2010</u>	1340.5	98.0	35.0	14.0	16.9	21.2	12.8	36.8	-3.6
<u>2011</u>	1347.5	63.0	17.5	10.5	16.6	21.1	12.4	36.2	-2.5

3 鳥坂寺跡の整備指針

3-1 鳥坂寺の概要

(1) 鳥坂寺の歴史

鳥坂寺は、奈良時代の歴史が記された『続日本紀』天平勝宝 8 歳 2 月 24 日条に「戊申(24 日)、難波二行幸ス、是ノ日、河内ノ国ニ至リ、御智識ノ南ノ行宮ニ御ス、己酉(25 日)、天皇智識、山下、大里、三宅、家原、鳥坂等ノ六寺ニ幸シテ礼仏ス」と記載があり、「河内六寺」の一つとして歴史に登場する。

すなわち孝謙天皇は、天平勝宝 8 年(756) 2 月 24 日に平城宮から難波宮に行幸する途中で智識寺南行宮に立ち寄り、翌 25 日に鳥坂寺など六寺に礼仏したのである。また、この行幸には、聖武太政天皇と光明皇太后も同行していたことが『万葉集』などから推定できる。

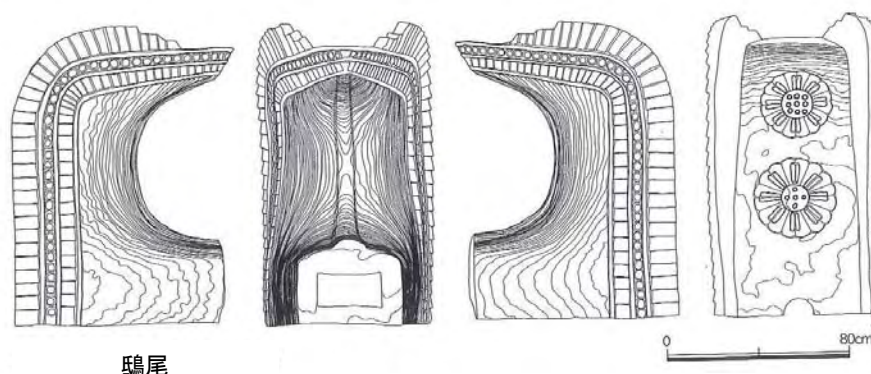
寺院の創建時期は不明であるが、造営工事は 7 世紀第 3 四半期の前半に始まり、主要伽藍は 7 世紀の間に整えられた。その他の建物は 8 世紀になって整備されたと考えられる。その後 250 年間存続し 10 世紀の間に廃絶したと思われる。

第 46 代 孝謙天皇

- ・在位:天平勝宝元年 7 月 2 日(749 年 8 月 19 日) ~ 天平宝字 2 年 8 月 1 日(758 年 9 月 7 日)
- ・父は聖武天皇、母は光明皇后。
- ・史上初めて皇女から立太子となる。
- ・孝謙天皇は東大寺戒壇院で聖武、光明とともに鑑真から受戒している。
- ・孝謙天皇は、その後、淳仁天皇を経て重祚し第 48 代称徳天皇となる。在位:天平宝字 8 年 10 月 9 日(764 年 11 月 5 日)~神護景雲 4 年 8 月 4 日(770 年 8 月 8 日)

次に鳥坂寺の発掘調査と史跡指定までの経緯を下記に記す。

- ・大正 15 年/昭和元年(1926) 大阪電気軌道桜井線(現在の近鉄大阪線)敷設時に遺物が出土
- ・昭和 4 年(1929) ブドウ畑で鴟尾(しび)の発見(学会で注目される)



鴟尾

- ・昭和 36 年(1961) 天湯川田神社境内の発掘調査。塔心柱礎石・雨落溝を確認
- ・昭和 37 年(1962) 金堂・講堂跡の調査。基壇・礎石群を確認
- ・昭和 58 年(1983) 「鳥坂寺」と墨書された土器の発見。僧房・食堂の掘立柱建物跡確認



「鳥坂寺」墨書土器

- ・昭和 59 年(1984) 寺域整地層の確認
- ・平成 21 年(2009) 鳥坂寺跡調査検討委員会の設立
金堂基壇北面階段と講堂礎石の再検出。北面回廊の礎石の発見



金堂基壇北面階段

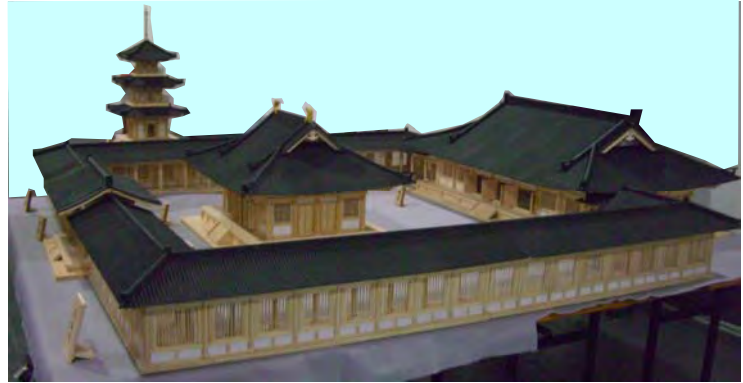
- ・平成 22 年(2010) 金堂基壇南面階段・礼拝石・塔雨落溝の再検出。
回廊東北隅礎石の発見
- ・平成 24 年(2012) 1月24日、国の史跡に指定

(2) 鳥坂寺の伽藍配置

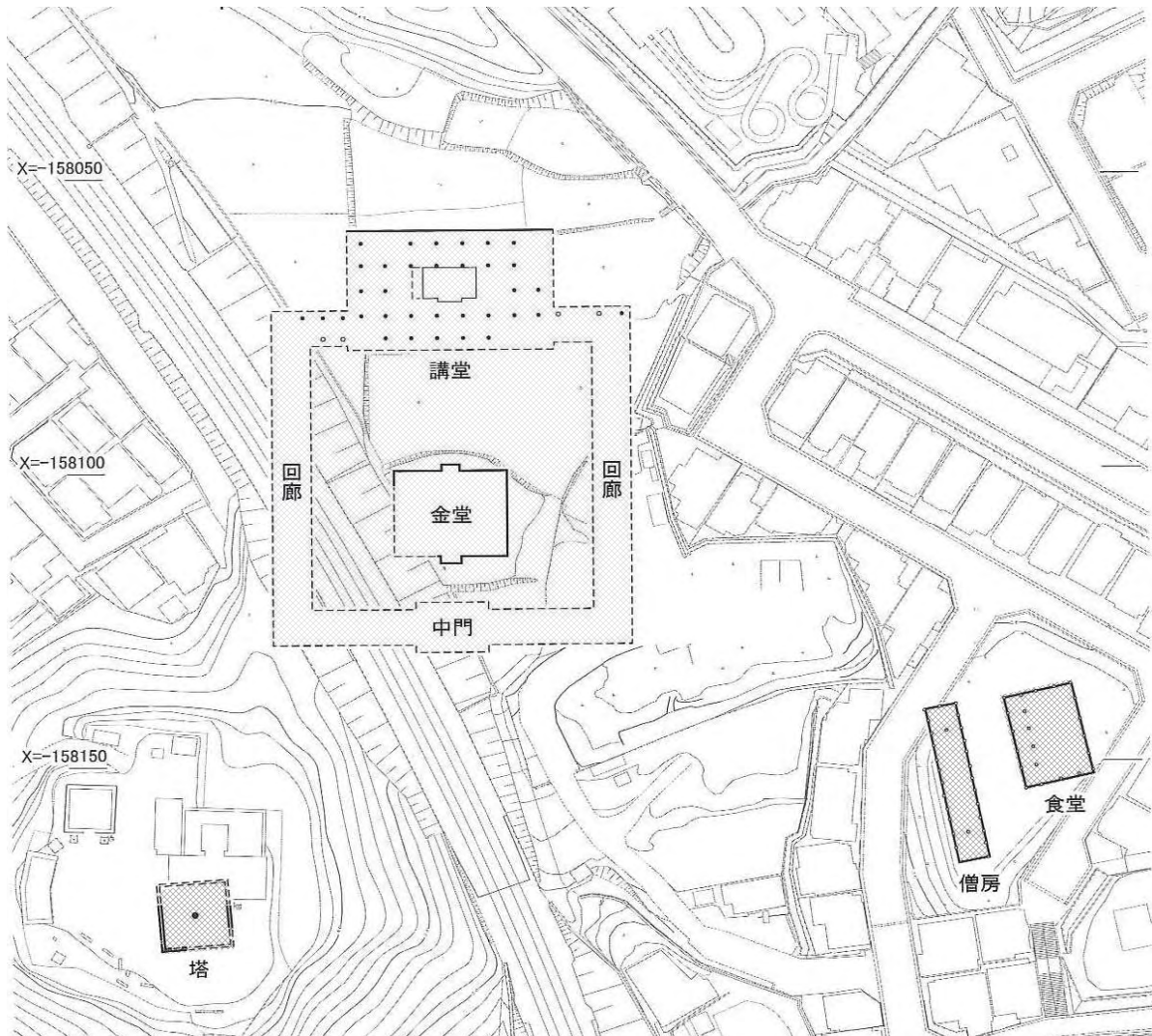
鳥坂寺は大和川に向けて張り出した尾根上に立地し、寺域はおよそ2町四方（約210m四方）と推定され、西側は信仰に係る空間で、金堂・講堂・塔などの主要建物が配置され、東側は生活や寺院経営に係る空間で、僧房や食堂あるいは付属雑舎が営まれた。

金堂と講堂は南北一直線上に配置され、中門から延びた回廊は金堂を囲み講堂に取りつく。塔は回廊の内側にはなく、金堂の南西方向の天湯川田神社境内に位置し、寺院最高所にあたる尾根先端部に建っている。

塔の位置については、大和川からの眺望を意識して選ばれたものと想定されるが、その後片山廃寺の塔が建立されると、大和川の両側に対をなして建つ景観が現出した。



市民歴史クラブによる鳥坂寺の復元模型



(3) 鳥坂寺跡の現状

■鳥坂寺の建物跡の分布

鳥坂寺は、柏原市高井田の西端にあり、東山山地の西麓に麓を接するように建ち並ぶ河内六寺の一つである。近年までの発掘調査では、金堂跡・講堂跡・塔跡・食堂跡・僧房跡などが見つかっている。

寺域は、金堂跡と塔跡との間に走る近鉄電車によって分断され、さらに金堂跡と食堂・僧房跡との間には道路や宅地があり、現在は3つの地域に分断されている。



現在3つの地域で発掘された遺構はそれぞれの場所に埋め戻され、地下保存されている。金堂跡・講堂跡は私有地内のブドウ畑にある(A)。塔跡は天湯川田神社の境内に地下保存され、説明板が設置されている(B)。食堂・僧房跡は市の公園用地内にある(C)。



A 金堂跡・講堂跡



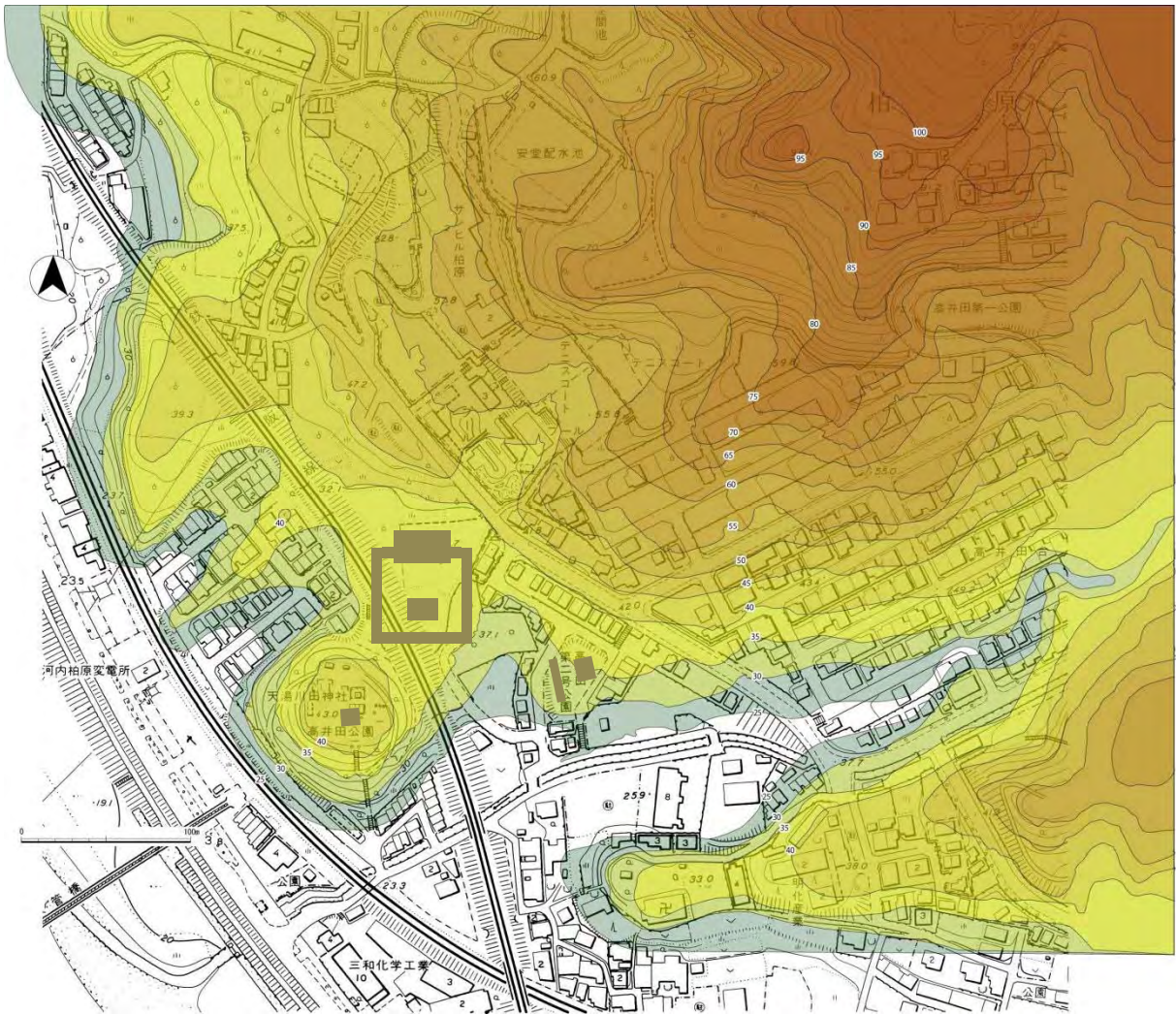
B 塔跡



C 食堂・僧房跡

■鳥坂寺の地形

鳥坂寺は、高井田とその北側の安堂町を画す標高 120m程の山塊から南西方向に伸びた丘陵上に位置している。主要伽藍跡は大和川に向けてさらに南西に張り出した尾根にある。現在、塔跡がある天湯川田神社は一見独立した丘のように見えるが、本来は一連の丘陵である。金堂跡・講堂跡で標高 40m、塔跡で標高 45m、食堂・僧房跡で標高 31mである。

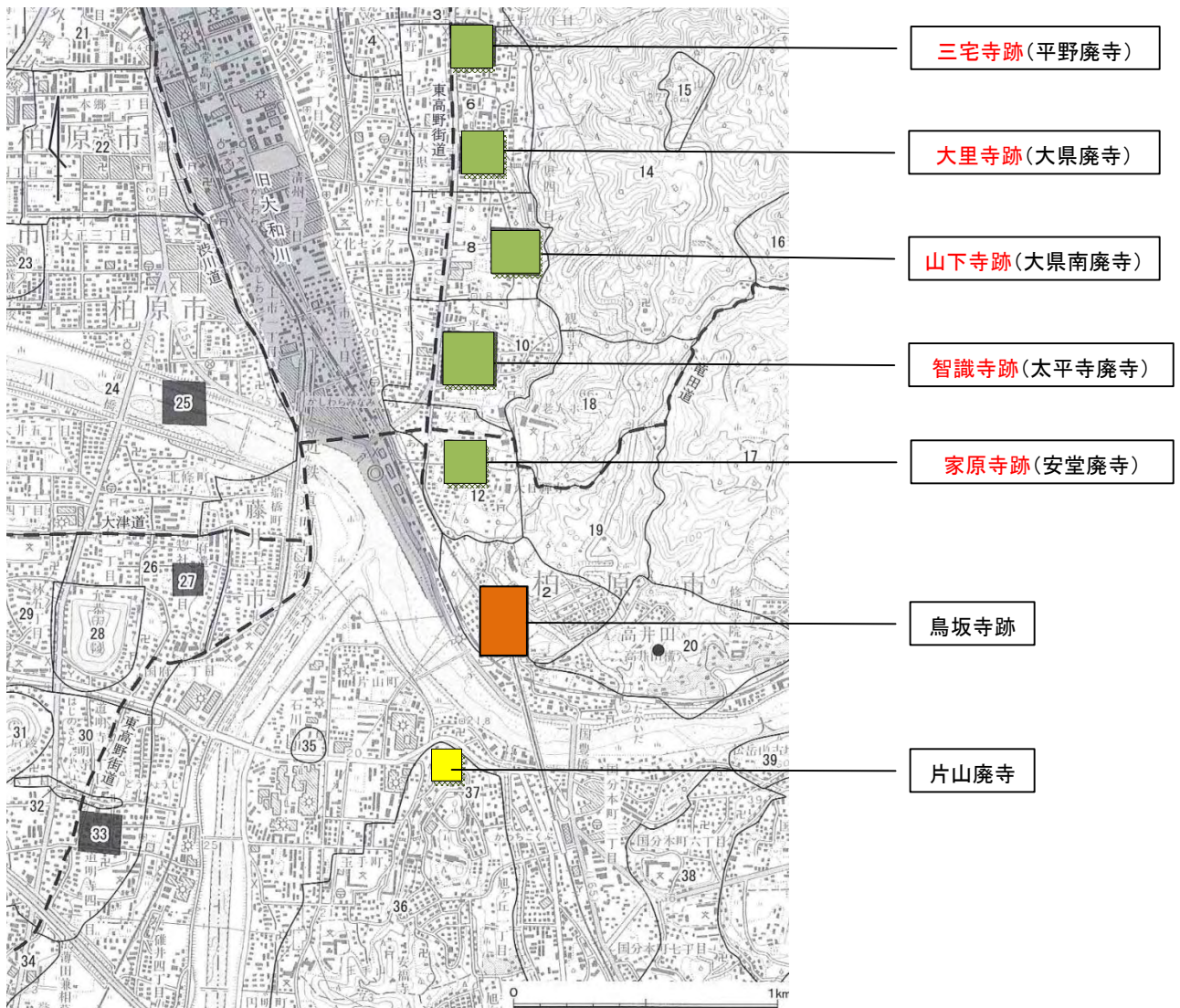


(4) 鳥坂寺跡周辺の現状

鳥坂寺跡の周辺にはさまざまな遺跡や施設が点在している。

■河内六寺

鳥坂寺以外の「河内六寺」推定地は宅地化が進み、現在では当時の規模などは確認できない。
太平寺地区の石神社の境内には、智識寺跡で発掘された東塔の心柱礎石が残されている。



大和川を挟んで国分東条地区・玉手地区には、河内国分寺や片山廃寺などの古代寺院もあり、河内国分寺跡では塔基壇が復元されている。

このように周辺には他に例を見ないほど古代寺院が集中し、仏教の先進地とされる大和や河内の中でも特徴的な地域を形成している。

■周辺施設

鳥坂寺跡から道を挟んですぐ向かいに、宿泊施設やテニスコート・プールなどのスポーツ施設を有する柏原市健康保養センター「サンヒル柏原」がある。建物内には大人数が入れる居室もあり、会議や講義なども行うことができる。



サンヒル柏原外観



サンヒル柏原会議室

JR高井田駅を降りてすぐのところに、総数 200 基以上あると推定されている大規模な横穴群を整備した史跡高井田横穴公園がある。その隣には、柏原市内の遺跡から発掘された考古資料や、民俗資料を中心に展示している市立歴史資料館が建てられている。



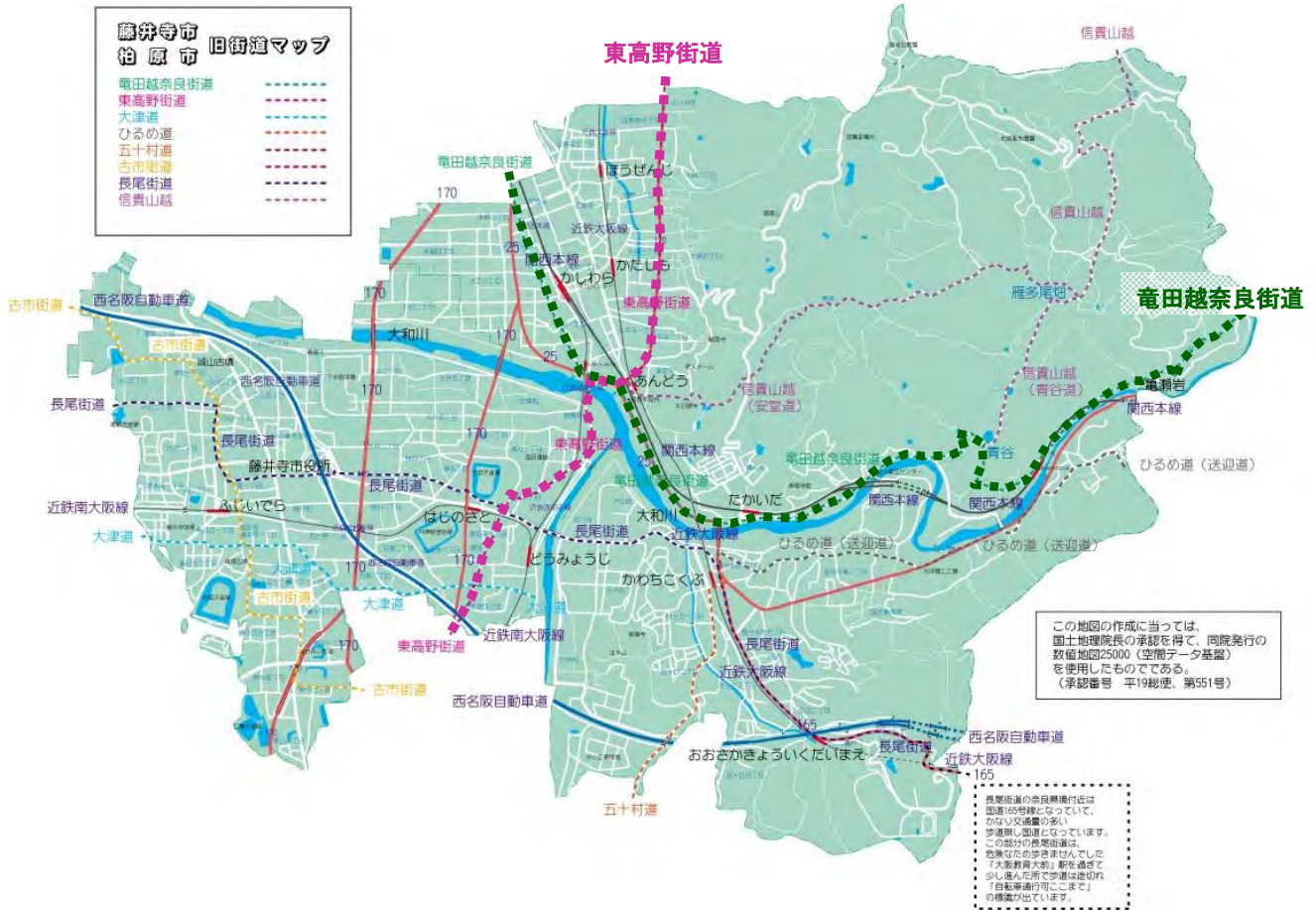
史跡高井田横穴公園入口



市立歴史資料館

■街道

この地域には、現在 JR 関西本線、近鉄大阪線、国道 25 号・165 号など複数の主要な鉄道や国道が集中しているが、古代においても、竜田道・渋川道・東高野街道の陸路や、大和川を中心にした水路など、重要交通路が東西・南北に交錯する交通の要衝であった。



3-2 鳥坂寺跡の保存・活用方針

(1) 基本理念

鳥坂寺の保存・活用に向けて、次のように基本理念を設定する。

基本理念

高度経済成長の時代を終え、物質的に満たされた社会がおとずれた現代、物の豊かさに比して心の豊かさが薄れてきたと言われて久しい。

私たちは、物の豊かさと心の豊かさのバランスのとれた社会に生きることを望んでいる。そのためには心を育てる活動がなくてはならず、そのとき歴史・文化、自然が果たす役割には大きいものがあると信じている。

鳥坂寺は『続日本紀』に記された河内六寺の一つであり、仏教史上重要な寺院である。同時に、きわめてよい状態で遺構が保存されている歴史上貴重な遺跡である。併せて、本市は難波と大和と結ぶ水路・陸路が交錯する交通の要であったことから、多くの文化財が残され、歴史的資産に恵まれた地域でもある。この鳥坂寺と玉手山丘陵の北端に建つ片山廃寺とが大和川の両岸にそびえ建つ威容は、当時の社会や文化が創り出した先進的な景観として、多くの人々を魅了したに違いない。

「文化遺産に学び未来に生きる力をのばします」と柏原市民憲章に示されたとおり、歴史的・文化的資産に恵まれた本市において、これらを次代の市民に伝えつなげることは現在に生きる私たちの責務であり、将来本市を担っていく市民に対する重要なメッセージといえる。

本構想は、鳥坂寺跡の持つ歴史的重要性を認識し、将来に向かって保存・活用していくための指針であり、市内に分布する様々な遺跡の活用を含めて、歴史のまちづくりの柱となるものである。

(2) 基本方針

基本理念並びに基本構想等策定委員会の合意を受けて、鳥坂寺跡の整備の指針として、つぎの基本方針を設定した。

基本方針

①史跡公園として整備

鳥坂寺跡は史跡公園として整備を行う。その前提として、現在3つの地域に分散された用地を一体化するとともに、計画用地の公有化を計ることが望ましい。

②多様な利用者に向けた整備

本市および本市周辺には、多くの歴史・文化的資産が身近に存在していることを、鳥坂寺跡の整備を通じて広くアピールするとともに、歴史愛好家だけでなく多くの人にとって容易に利用できる施設として整備を進める。

③復元を含めた具体的な展示

古代の空間をリアルに体感できるよう、発掘調査や研究成果に基づいてできるだけ忠実な再現を行い、「歴史が見える」施設として具体的な展示を行う。

④人と歴史の交流

歴史を十分堪能できるよう、遺跡・遺構を明示するとともに、落ち着いて古代に想いを馳せることができる憩いの空間を用意し、さまざまな人々との出会いを楽しめる広場とする。

⑤魅力の多様化

子どもからお年寄りまで、世代を超えて多くの人々が利用できるよう、多様な魅力要素の導入や開放時間帯、出入りの利便性等にも意を配り、利用頻度を高めるような配慮を行う。

⑥周辺整備とネットワークの構築

史跡を有効に活用できるよう、河内六寺や周辺に点在するさまざまな歴史的資源の整備、サンヒル柏原・歴史資料館など公共施設との連携利用など、市内および周辺を含めた歴史のネットワークを構築する。

(3) 基本目標

基本理念・基本方針を受けて、次のように基本目標を定める。

■整備計画

利用と管理

整備計画を策定するにあたっては、基本方針にのっとった利用のあり方に意を配り、それにふさわしい運営管理を検討し、主旨が全うできるように進める。

市民参加

基本構想策定委員会に見られるように、市民の声を反映しながら整備計画がたてられていくよう、運営管理も含めて、市民の参加を促しながら計画の策定を行うことが望まれる。

周辺施設との連携

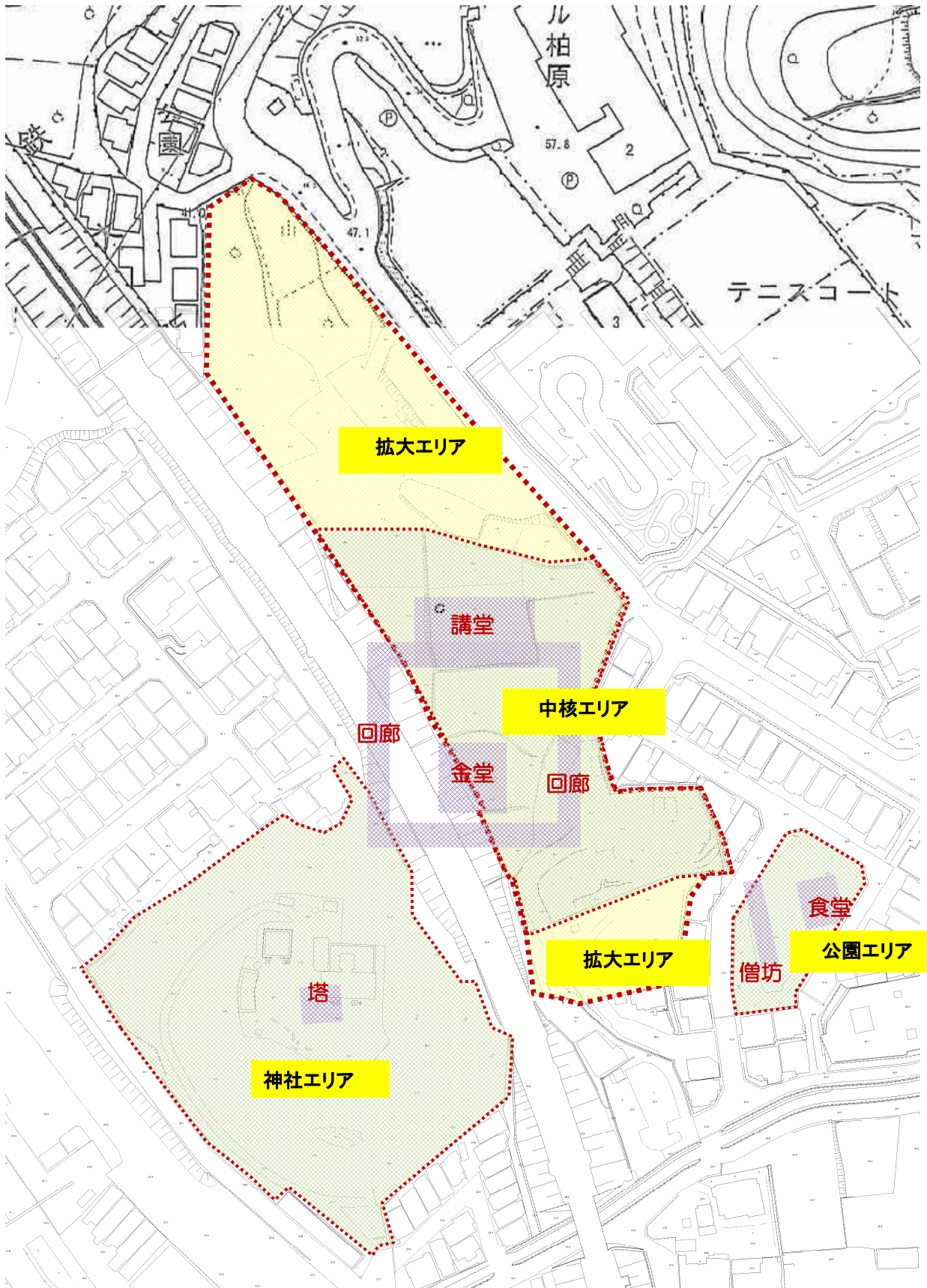
周辺施設とのネットワークを形成するために、本計画の進捗に応じて周辺施設との連携を図りつつ、計画の策定を行うことが望まれる。

(4) 対象範囲

史跡として指定された本来の範囲は当然のことながら、利便性を高めるために周辺エリアも含めた整備が望まれるところである。

したがって、本来のエリアである①中心となる中核エリア、②神社エリア、③公園エリアに加え、④拡大エリアを設定し、一回り大きな範囲を構想・計画の範囲として設定し、次図に示す。

基本構想計画対象範囲



(5) 整備期間

整備期間については、文化財への社会的な理解を推し進め、積極的な予算取得をもとに、早期整備が望まれるところである。

4 保存管理運営計画

(1) 保存管理計画

文化庁の指針に従い、国史跡として適切な保存管理計画を策定する。

(2) 管理運営の考え方

市民からの理解と協力が得られるよう、地域住民とも協働・連携した管理運営について十分な配慮をおこなう。

(3) 管理運営主体

管理運営については、柏原市教育委員会が主体となりながら、市民や各種団体の協力が得られるような体制づくりを目指し、鳥坂寺跡の魅力を引き出せるような組織づくりを行うように考える。

(4) 管理運営計画

運営計画の内容については、本施設の主旨が十分いかされるよう、運営時間帯や、季節ごとの管理運営計画、さらにはイベント等のソフトウェアについても、十分検討が望まれる。

(5) 活用の促進

本施設が利用者に愛され、頻度高く利用されることによって、柏原市周辺地域の発展に寄与できるよう、十分な活用を図る必要がある。

5 今後の課題

本構想は、鳥坂寺跡の将来にわたる基本的な理念、方針を示したものであり、今後の整備に向けた指針である。したがって本構想の実現に向けて、課題と考えられる事項を抽出し、以下に整理する。

- 用地
本構想の計画対象範囲は、史跡エリア以外の周辺も含んだ用地を考える。
これは、将来の用地確保を期待してのものであり、今後のスムーズな確保が望まれる。
- 調整・協議
整備に向けては、関連機関・関連部局等との十分な調整を図り、進めていく必要がある。
今後作成する整備内容にもよるが、遺跡を二分する鉄道関係との調整・協議は重要となる。
- 管理運営
現時点では、管理運営や管理主体等への言及にまで至っていないことから、今後整備内容が明らかになるにしたがって、管理運営計画について煮詰めていくことが望まれる。
- 住民参加
整備や管理を含めて、地元周辺や市民の参加について、またそれらの参画への道筋について、検討されることが望まれる。
- 整備計画
費用の確保や財政的な裏付けをともなった、スケジュールを含む、整備計画の策定が望まれる。